

12月21日 学校教育DXの課題（遂行を妨げる）

○現行学校教育への足し算では活用困難の認知と対処を？

・日本の公立小学校の学区制、学級担任制、学習指導要領、検定教科書、学年、学級、時間割を前提とした構造を無視したDX、タブレットの導入は目的達成困難

→一斉学習と個別学習、履修守護と習得主義、対面と機器、リアルとオンライン

→個別最適化を掲げても、理解度と進行度の個別化は可能だが学習内容自体を個別化することは不可能

→年齢による学年制と全国共通の教育課程を前提する限り、本来の意味の個別最適化は不可能

→個別最適化と協働と言い換えたとしても、既存の教科構造を前提とする限り、モザイク的知識の集積の構造を変えることは困難

○個別最適化と協働的な学びを束ねる学校DXの診断と処方箋の開示の主体をどこに求めるか

・個別最適化＝個人知、個性化、個人化、自立 対 協働的な学び、共有知、共通理解、集団化、共生

12月22日 学校教育が育成する空気と付度と自粛にDXとDiversityを差し込む

○ダイバーシティの観点が重なることで学習主体・内容・評価の多様化の優先化が組み込まれる。

・Digital transformation→デジタル機器活用による組織、仕事、活動、学習の生産性向上

→人のあり方の一元化・序列化を求める

・ダイバーシティは人のあり方と評価と資源の分配の基準に直接かかわる

→多様性を価値観と行動様式の基準に置く

・DXはダイバーシティ（あるべき人の評価と配置）実現の手段

★一元化を多元化に→遠隔と映像を対面と実物に→情報の交換から価値判断の選択肢の優先度に

→対立と闘争を厭わず、価値の実現への試行錯誤（挑戦）を選択

12月24日 個別最適と協働の同床異夢の顕在化を

○DXの個別最適化は、日本の社会制度・意識のなかでは仕切られた競争と序列化を避けえない

・ビックデータとAIは類似回答群に終焉する

→ビックデータは匿名の意思、個別最適性は固有名詞の世界

→最適化の領域が限定されることで、匿名性を個別制に転換可能

・協働は個別最適化を構成（実現）する要素として選択（活用）可能だが

・個別最適化の協働（集合体）によって新たな個別最適化が生じる保障なし

・ともに社会的な状況（シチュエーション）と文脈（コンテキスト）から離れて存立し得ない

→予言の自己成就、アナウンス効果、ヘッドスタートなどなど→規範からの遊離が人と社会の特性

→個別最適化も協働も、ソーシャルコンテキストから自由ではない

→ともに自由からの逃走の畏から自由ではない・・・自己決定からの逃避・・・

○学校教育DXとオンライン診療の問題との類似性と異質性

・対面とオンライン→医療機器の活用による診断と学習機器活用による評価のズレ

・特定の病巣、隠れた症状と学習遅滞、個性・特性・多様性

○菅政権の評価に応用すると

・実務能力の高さと説明力の低さの落差が大き過ぎる

・デジタル化、zero carbonへの転換→政策の施策化の速さは評価できるが・・・

・これまでできなかったことへの問い、できない可能性、実現を阻む（抵抗の仕組み）への関心の低さ

・必要性和負担の差し引き判断ミス、キャリアシステムへの過信、意思決定の結果への判断ミス

→システムの複雑性と開放性、機能と逆機能、潜在と顕在、強靱と脆弱、ダイバーシティの功罪

○本日日経一面トップ記事：脱炭素2050年への政府計画

・目の前のコロナ勝負3週間で失った判断力と実務能力への信頼を再構築する情報にはならない

・報道番組とSNS情報の差異（別世界）、受けての多層下（政府キャリア、官邸キャリア、議会風土）

→全て異なる世界→それぞれ情報発信が交錯する意図せざる効果と機能へのセンス（感受性）に疑問